

2007年 全日本選手権フォーミュラ・ニッポン 第7戦 RACE REPORT

<第7戦・スポーツランドSUGO>

9月15日・16日

<観客動員数>

15日 / 6,800人・16日 / 16,500人

<TV放映> フジテレビ「モタスポS!」レース終了8日後月曜日 25:10-26:10

□D o C o M o TEAM DANDELION RACING

ドライバー (#40) ビヨン・ビルドハイム (#41) ファビオ・カルボナーネ

チーム総監督 村岡 潔

チーフエンジニア (#40) ロブ・アーノット (#41) 吉田 則光

□HARD

シャーシ LOLA B06 / 51 FN06

エンジン HONDA HF386E V8 3000cc

通信機器 NTT D o C o M o FOMA

□MAIN SPONSOR

株式会社NTTドコモ NTT D o C o M o

株式会社NTTドコモ関西 NTT D o C o M o 関西

株式会社NTTドコモ東海 NTT D o C o M o 東海

株式会社NTTドコモグループ NTT D o C o M o G r o u p

□SPONSOR

田中オートサービス TANAKA

株式会社和光ケミカル WAKOS

京都機械工具株式会社 KTC

山田辰株式会社 THE MAN SPIRIT

パーカル株式会社 PERCUL

株式会社親和 R i c h

有限会社マジックスクエア MAG I C S Q U A R E

レカロ株式会社 RECARO

エイティーエス株式会社 A T S

玉置商事株式会社 TAMAKI

モトローラ株式会社 MOTOROLA

株式会社フュートレック F U E T R E K

三菱電機株式会社 M I T S U B I S H I

株式会社ルネサステクノロジ R E N E S A S

株式会社ソフトウェアクレイドル C R A D L E

シャープ株式会社 S H A R P

株式会社EXR J a p a n E X R

アーム株式会社 A R M

株式会社エイチアイ H i

フォーミュラ・ニッポン 第7戦 <予選>

9月15日（土） ・天候／晴 ・出走台数／21台

**最終アタック直前に想定外のメカトラブルが発生しビルドハイム選手は17番手に沈む。
カルボーネ選手は着実にセットアップを進め11番グリッドを獲得、ポイントを狙う！**

杜の都・仙台に程近いスポーツランドSUGOでの予選は、残暑に見舞われ汗ばむような陽気ながらも降雨の心配のない安定した気候となり、絶好の予選コンディションとなった。

●公式予選1回目（11：15～ 45分間 COURSE／ドライ）

予選開始時点の気温は29度、路面温度は42度まで上昇した。コースオープンから5分後にビルドハイム選手、カルボーネ選手とも1セットのニュータイヤを装着しコースイン。先ずは1回目のアタック体制に入った。ビルドハイム選手が1分10秒前半をマークし4番手、まずまずの滑り出しとなった。カルボーネ選手も順調にセットアップを進め、予選開始から30分程経過したあたりで1分9秒台をマーク。その後も両選手のセットアップは進み、最終的にはビルドハイム選手は15番手、カルボーネ選手は16番手という結果で予選1回目を終えた。

●公式予選2回目（15：10～ 45分間 COURSE／ドライ）

午後3時を過ぎても気温29度、路面温度は38度とコンディショニング的には期待したほど涼しくならなかった。そんな中、両選手はユースタイヤでコースイン。予選1回目のセッティングデータを分析し、ビルドハイム選手のマシンはセッティングの方向を午前中とは大きく変え、大幅なタイムアップを目指した。一方のカルボーネ選手は予選1回目のセッティングをさらに突き詰める方向で予選2回目を進行。予選開始早々、ビルドハイム、カルボーネ選手ともに予選1回目のベストタイムに肉薄するタイムを叩き出し、セットアップの方向性に間違いがないことを確認した。

その後マシンの微調整は続き、予選中盤にニュータイヤを装着してのアタックとなる。ビルドハイム選手は9秒台中盤、カルボーネ選手は8秒台までタイムアップ。さらなるタイムアップを目指しアタックを続けていたビルドハイム選手だったがクラッチがオーバーヒートしてしまいアタック中断を余儀なくされた。ピットに戻りメカニックが懸命にマシンを修復し、再度コースインしたもののタイムは縮まらず17番手、一方のカルボーネ選手はタイムアップを果たし11番グリッドを獲得した。

★第7戦・総合予選正式結果 40／17位（出走21台）。ベストタイム／1分09秒508
41／11位（出走21台）。ベストタイム／1分08秒826

フォーミュラ・ニッポン 第7戦 <決勝>

9月16日(日) ・天候/晴 ・出走台数/21台

予選17位ながら決勝での強さが際立つビルドハイム選手、スタート直後の多重クラッシュでまさかのリタイア。カルボーネ選手、荒れ模様のレース展開を9位でゴール。

第7戦はアップダウンの多いテクニカルなコースを62周、全走行230kmの短距離スプリントレース。ピット義務はなく、今回使用される08年ニュースペックタイヤの耐久性が飛躍的に向上しているため、ほとんどのチームはノーピット作戦をとると予測される。

●決勝(9/16 14:34~ COURSE/ドライ 62周)

スタート時の気温は31度、路面温度は43度。午後2時34分にレッドシグナルからブラックアウト、決勝がスタートした。全車、第1コーナーを抜け第2コーナーに進入した隊列走行の状況の中で、ビルドハイム選手のスペースがなくなり荒選手のイン側に接触。吉本選手を巻き込み3台がスピンしいきなりのリタイアとなった。これらのマシン回収のためにすぐさまセーフティカーが導入され、レースが再開されたのは5週の終了時点からとなった。

一方のカルボーネ選手はスタートを無難にこなし、レース再開後は前に行く片岡選手を猛追。第1区間では片岡選手より早いタイムを刻み差を詰めるが抜くまでには至らない。オーバーテイクの困難なサーキットではあるが、カルボーネ選手は諦めることなくアタックを続けた。そして、後ろからは立川選手をパスしたオリベイラ選手が迫ってくる。片岡選手にプレッシャーをかけながらオリベイラ選手をブロックするという苦しい状況が数周続いたが、23周目にオリベイラ選手がスピンしコースアウト。34周目には横溝選手をパスしポジションを一つ上げ12位に。カルボーネ選手はトップグループと同等のラップタイムを刻みながら前に行くマシンを追い続けた。

そして迎えた49周目、8位争いをしていた井出選手とクルム選手が馬の背コーナーで同時にスピン。それ避けるために急減速した金石選手に片岡選手が乗り上げマシンが宙に舞うほどの大クラッシュが発生した。このアクシデントにより本日2度目のセーフティカーランとなった。残り8周でレース再開となり、最後まで諦めずにアタックを続けたカルボーネ選手は、21台中8台がリタイアというサバイバルレースを9位で完走した。

★第7戦・決勝正式結果 40/リタイア(1周目)

41/9位(21台中)。 ベストタイム/1分12秒483

■ドライバーズコメント

ビルドハイム選手「朝のフリー走行ではマシンのセッティングも非常に良く、決勝でのジャンプアップに期待が持てました。そしてレースが始まり2コーナーで前に行く荒選手のイン側が空いていたので迷うことなく飛び込みましたが、残念ながらリタイアという結果になってしまいました。私としてはレーシングアクシデントであったと確信していますが、これによりペナルティーポイントを受けてしまった判断に関しては真摯に受けとめたいと思います。非常にストレスの溜まるレースでしたが、次戦は必ず結果が残せるように頑張りたいと思います。」

カルボーネ選手「土曜日の予選からセットアップを続けて日曜日の朝までは非常にマシンの感触は良かったのですが、決勝が始まると少しアンダーステアの強いマシンになってしまいました。しかし諦めずにプッシュを続け9位完走する事ができました。ポイントが取れなかったのは残念ですが、今回のサバイバルレースで生き残れたことは自分にとって非常にプラスになったと思います。次戦もてぎはテストでも調子が良く、本番でも結果が出せると期待しています。」

■吉田チーフエンジニアコメント

「ビルドハイム選手のクラッシュはチーム側もレーシングアクシデントとして認識しており、攻めた結果のリタイアだと思っています。しかしながら朝のフリー走行が非常に良かっただけにこの結果は非常に残念。カルボーネ選手も朝のフリー走行では良い感触ではあったものの、決勝になるとアンダーステア傾向になってしまいました。この原因を早急に解析し、次戦までに対策を考え納得できる結果を残したいと思います。」